平成30年8月市長定例記者会見の概要と質疑応答

平成30年8月1日（水）
午前11時～午後0時1分
柏崎市役所大会議室

発表事項の前に、連日の猛暑に関連して、柏崎市の水の状況について報告します。
まず、水道専用ダムです。柏崎は、赤岩（あかいわ）、谷根（たんね）、川内（こうち）の水道専用ダムが3つあります。7月30日現在の貯水率は、合計で86パーセントです。最も貯水率が低下した年は平成6年ですが、その年の7月の貯水率は、約70パーセントでしたでの、まだ15ポイント以上多い状況です。同年9月中旬が最も低下し、45.9パーセントでした。その時と比べると、水道専用ダムは、まだ大丈夫です。
次に農業用のダムです。7月30日現在、高柳の栃ケ原（とちがはら）のダムの貯水率は61.8パーセントです。7月22日から放流制限を続けていますが、このまま雨が降らないと8月19日に貯水量がゼロになる見込みです。また、西山の後谷（うしろだに）ダムは、7月30日現在で貯水率が65.1パーセントです。こちらは、放流制限を行っていません。放流を続けた場合、8月25日に貯水量がゼロになる見込みです。

1　発表事項

（1）　市内で2カ所目の資源物リサイクルセンターを西本町に開設

（主管：環境課）

平成15年6月にリサイクルステーションを東本町地内に開設しました。平成19年の中越沖地震で閉鎖しましたが、平成20年、松波地内のクリーンセンターかしわざき内にリサイクルセンターを再度設置しました。現在、リサイクルセンターには資源物の持ち込みが非常に多く、交通に支障が生じたため、西本町に2カ所目のリサイクルセンターを開設します。場所は、消防署の旧西本町分遣所の跡地です。開設日は、クリーンセンターかしわざきと同じ水曜日、土曜日、日曜日です。同じ日にしたのは、道路の混雑を2カ所に分けて緩和させるためです。開設当初は混雑が見込まれるため、開設後1ヵ月程度は交通案内を行います。ちなみに、ごみの分別数は23です。これは県内で1番多い分別数です。
平成15年の資源物の回収実績は196,451キロです。平成29年度は987,932キロの約5倍で、利用人数は11倍です。

(2)　セルビア共和国水球男子代表チームが 2019 世界水泳大会の事前キャンプを柏崎市で行います

（主管：水球のまち推進室）

2020 年の東京オリンピック、パラリンピックのホストタウン事業として、7 月 3 日～4 日、市の水球のまち推進室の室長がセルビア共和国、モンテネグロに伺い、事前キャンプの誘致活動を行いました。7 月 11 日、セルビア共和国から 2019 年に韓国で行われる世界水泳の事前キャンプ地に決定した旨の連絡がありました。これは、柏崎の練習環境がいいことと、前モンテネグロの代表監督で、現在はブルボンウォーターポロクラブ柏崎監督のランコ・ペロビッチさんが、両国に柏崎の取り組みなどの情報提供をしてくれたことが要因です。

関連して、夏に県外大学が柏崎で合宿を行います。専修大学のバドミントン部の男女、亜細亜大学の準硬式野球部、早稲田大学のバドミントン同好会、その他私立 2 校、国公立 1 校の水泳部、バレーボール同好会が柏崎で合宿を予定しています。合宿地としての柏崎の人気が盛り返してきたと喜んでいるところです。

(3) ビーチピクニック 2018　日本海側初海水浴場開場 130 周年イベント

（主管：商業観光課）

柏崎の海のシーズンは、お盆前までという感覚があると思いますが、その期間を延ばそうということで、9 月 8 日、9 日の初秋にビーチピクニックを行います。昨年に続いてシーカヤック、サップなど、さまざまなマリンアクティビティを展開します。ビーチピクニック専用のフェイスブックでも情報発信を行っています。実行委員長は、観光協会事務局長の白川さん。実行委員は、シーカヤックで活躍の栃掘さん、柏崎シティセールス推進協議会で活躍の伊藤さん、西方さんなどです。多くの方に秋の柏崎の海を楽しんでもらえればありがたいです。

(4) 柏崎ファンクラブ会員 1 万人への道　―日本初!?　岬カード登場

（主管：元気発信課）

ファンクラブ会員数は、平成 28 年度末で 1,225 人でしたが、今年の 6 月末時点で 37 都道府県 4,172 人に増えました。柏崎ファンクラブ会長の青柳さんは、会員数 1 万人を目指して頑張ろうと言っています。

今回、柏崎シティセールス推進協議会会長の伊藤達栄さんの発案で、おそらく日本初の岬カードを作りました。柏崎は、海の町ですので、岬カードを作って、岬めぐりをしようということです。山本コウタローさんとウイークエンドの「岬めぐり」という歌を歌いながら、柏崎の 6 つの岬を巡ってほしいです。6 つの岬を巡ると 7 つ目の岬、松ヶ崎のプレミアムカードを手に入れることができます。このように柏崎の魅力を市外に向けて発信することで、移

住・定住につなげていきたいです。

関連して、柏崎信用金庫が 4 月に始めた定期積金の金利が 2 倍になる会員限定メニューの実績を紹介します。契約数は 34 件、契約金額は 2,414 万円です。たくさんの方から会員になってもらい、信金で 2 倍の金利を手に入れてほしいです。

(5)「かしわざきカレッジ@たんね」を開講

―首都圏在住のファンクラブ会員 15 人が参加―

（主管：元気発信課）

これは、総務省の「「関係人口」創出事業」のモデル事業です。7 月 21 日に東京渋谷で、初めての会合を開きました。15 人の方が集まりました。参加者は、男性が 4 人、女性が 11 人です。うち学生は 5 人で、学生以外の方は会社員・専業主婦など 10 人です。柏崎に関わりがない、柏崎に行ったことがない人もいます。アートに興味があるなど、応募の動機はさまざまです。応募のきっかけは、UI ターンフェア、高柳の門出和紙の小林さんからの紹介などです。8 月 4 日に 2 回目の座学を、8 月 18、19 日に、谷根で「たんねのあかり」のためのワークショップの手伝いをします。「たんねのあかり」の嶋田実行委員長をはじめ、谷根の方々も意気込んでいるところです。

(6) 県外からインターン生が岩之入集落にやって来ます

（主管：市民活動支援課）

岩之入集落は、44 世帯の非常に小さな集落です。鹿児島、千葉に住む、20 代前半の女性が、8 月の 11 日から 9 月の中旬までの約 1 ヵ月間、岩之入に住み、地域の方と交流します。3 人の応募動機は「少子高齢化・人口減少で活気が失われる地域へ足を運び若い力で地域に元気を取り戻したい」「プロジェクトをとおして、自分自身の大きな成長につなげたい」「お金では、買えない人とのつながりやそこから広がる雰囲気に関わる時間を過ごしてみたい」「カレンダー作りを通して、改めて自分の価値観を見直し、深く知る機会にしたい」といった内容です。

プロジェクトの主体は、インターン生ですが、地域の方も一緒に活動することも多いと思います。よそ者の視点で地域の活性化につなげることができたらと思っています。内容・企画は岩之入集落、コーディネーターの中越防災安全推進機構、市の 3 者で話し合って決めました。

（7）今後の原子力発電所と新たなエネルギ―産業を考える講演会を開催

（主管：ものづくり振興課）

廃炉産業調査研究事業の一環で、原子力発電所の今後のみならず新たなエネルギー産業を柏崎の中で作りだしていくことができないか。今年3月に作った市地域エネルギービジョンと連携をさせながら、柏崎の原発の今後、そして、新しいエネルギー産業を考えるきっかけになればと期待しています。講師は、政府の総合資源エネルギー調査会の委員の橘川武郎（きっかわ　たけお）さんです。産業界、市民団体の方などいろいろな領域の方に参加してほしいです。

2　当面の諸行事

8月8日は水球の日。18日は西山町で草生水まつり。19日は小学生お仕事体験塾。25日は木下斉さんの講演会。9月9日は綾子舞の現地公開です。綾子舞は、7月29日に国立能楽堂で公演が行われました。私も観覧してきました。講演は、能「柏崎」も同時に見られるという企画でした。国立能楽堂の約600席が満席でした。これは、柏崎の談笑会、鵜川会、首都圏の鵜川会の協力がありました。当日は、3分の2以上の方が柏崎関係者以外の方だったと思います。今まで綾子舞に触れることが少なかった市外の方にご覧いただけたと思っています。外国の方も10人ほどいました。非常にいい情報発信ができたと喜んでいます。9月9日の現地公開につながるといいなと思っています。

7月30日、オリンピックの総合統括として野村萬斎さんが選ばれました。萬斎さんの妹さんは、私が勤めていた学校の生徒でした。私は、近日中に野村萬斎さんと妹さんに連絡をして、東京オリンピックで、綾子舞が演じられるようなアプローチができたらと夢を膨らませています。

3　報告事項

最後に、新潟県菓子工業組合柏崎支部から、ふるさと納税の売り上げ代金の5パーセントを西日本豪雨災害の被災地の方に寄付したいという、ありがたい申し出があったことを報告します。

4　質疑応答

◎今後の原発と新たなエネルギー産業を考える講演会に関する質問

記者：人選の理由と今後の廃炉関係の事業で、日程が決まっているものがあれば教えてほしい。

市長：人選は、今春私自身が橘川先生の講演を聞いて、非常にバランスの取れた考えをお持ちだなと。原発がずっと続くという考えでもないし、原発を今すぐ廃炉にしろという考えでもない。現実的な原発の在り方、今後、代替する新しいエネルギーの話をしていました。政府の総合エネルギー調査会の委員で、最先端の議論に関わっていることも考慮して人選しました。
今後の計画はありません。この講演をきっかけに参加者の意見を聞きながら、将来的な廃炉産業の進め方を考えたいと思っています。

◎かしわざきカレッジの講師の感想と事業への期待度に関する質問

記者：座学の講師の感想は。この事業への期待度は。

市長：座学の講師の感想は、直接聞いていません、申し訳ありません。

元気発信課長：座学に同席しました。受講生の皆さんから突っ込んだ質問があったので、講師の方からは、手応えと受講生の熱い思いを感じていただいたと思っています。

市長：講師は、たんねのあかり実行委員会事務局長の小俣さんと顧問の池田さんです。
期待度は、柏崎に今まで１回も行ったことがない、柏崎と関係がないという方もいましたし、受講理由を拝見すると、バラエティに富んでいるので、広がりが期待できるな、というところです。

◎ダムの貯水率に関する質問

記者：農業用のダムの貯水率が下がっているが、米山プリンセスへの影響はどうか。

市長：米山プリンセスは基本的にはコシヒカリですので、心配です。担当課から農家の方に注意喚起の連絡をしました。

記者：市で特別な措置をするのか。

市長：今のところ考えていません。

記者：収穫量に影響するか。

市長：非常に心配です。水・肥料について注意喚起をしていますが、それ以上のことは改めてというところです。

記者：仮に貯水がなくなった場合、確保はできないのか。

市長：ゼロになった場合はどうしようもないですよね。貯水量は、8 月 19 日と 25 日にゼロになると予測しましたが、これより早まる可能性があります。極早生品種の「葉月みのり」、早生品種の「こしいぶき」、「越路早生」に既に影響が出始めているので、非常に心配です。

産業振興部長：昨日、消雪パイプの井戸から水を提供できるという県の通知がありました。市の消雪パイプの井戸の使用を、内部で検討したいと思います。吸い上げるための機器の整備が必要になりますが、土地改良区と協議を進めたいと思っています。

市長：消雪パイプでの供給を、長岡市は始めています。ただ、消雪パイプの井戸の水量は、多くないと思います。上水を供給するのかと言われれば、残念ながらそれは考えられません。飲料水が一番大事ですので、雨乞いをするだけです。

◎廃炉事業に関する質問

記者：講演会は廃炉産業の模索として、初めて行う事業という認識でいいか。

市長：そうです。予算化したのは初めてです。

記者：市長は1年以上前に廃炉計画を求めて、東電に行き、その上でこの事業があると思うが、遅れたと考えているか。

市長：そういう指摘もあるかもしれません。何度も言っていますが、柏崎市は昭和43年から誘致が始まり、原発とともに50年歩んできました。ここで廃炉とか、廃炉計画とか、廃炉産業という言葉が出されることに違和感を持つ方が多いのが現状です。最初の一歩にもなっていないかもしれません。半歩かもしれません。が、さすがに原子力発電所はいつまでも続くと思う方はそういないだろうと思います。遅れているとは考えていません。

記者：そうした中で原発の再稼働を推進している商工会議所、青年会議所が協力という形で名前を出してくれたことをどう考えるか。

市長：もちろん商工会議所も青年会議所も、今の段階で廃炉を求めるとか、廃炉計画を求めるというスタンスでないのは、承知しています。しかし、原発は当面の間、6号機、7号機の安全性を確保しながら、条件が整えば再稼働を認める、一方で1号機から5号機の廃炉計画を求めて、徐々に確実に減らしていくという私の考えを、商工会議所、青年会議所の方も少しずつ理解をし始めていると、私も喜んでいるところです。

◎岬カードに関する質問

記者：岬カードの在庫数は。カードは誰がどういう発想で考えたのか。

市長：各岬で500枚、プレミアムカードは400枚になります。
発案は、柏崎シティセールス推進協議会の伊藤会長です。今年は日本海側初の海水浴場開場130 周年ということと、伊藤会長がサップやサーフィンをする海の男の一面があります。海という発想の中から、日本で岬カードはどこもやっていないので発案したと聞いています。

◎東電社長との会談内容に関する質問

記者：明日、東電の小早川社長が柏崎に来るが、どんな話をするのか。

市長：知事と会った後の短い時間です。知事との話の内容を小早川社長に聞きたいと思います。昨日は、核燃料サイクルに対するプルトニウム利用について原子力委員会から発表がありました。また、過日はエネルギー基本計画についての発表がありました。エネルギー基本計画、そしてプルトニウムの利用、削減など今の国際情勢、日本の情勢を踏まえて、1 号機から 5 号機の廃炉計画をもう 1 度確認したいと思います。

記者：廃炉計画のほか、初めて使用済み燃料の累進課税の話をするのか。

市長：時間があれば話したいと思いますが、順次協議は進めています。社長自身も承知していると思います。話題になることは間違いないですが、使用済み核燃料の経年累進課税化を大きな項目として言う心づもりはありません。

記者：大きな項目は、廃炉計画のことか。

市長：そうですね、先ほど言ったように、花角知事との話、つまり県との関係。それから私ども立地自治体との関係が一番大きいのではないでしょうか。その後は、来年 6 月までに廃炉計画を提出してほしいことを再確認して、あとは、使用済み核燃料税の経年累進課税化、その他のこと。15 分なので話を聞く方が多いと思います。

記者：廃炉計画は、まだ期限もあるので明日、明確な答えはないかもしれないが、どのような回答を期待するか。

市長：先般、経済誌に大きく報じられたが、小早川社長の言葉として、廃炉計画という言葉ではなく、現実的な原子力発電所の在り方、東京電力の在り方みたいなものは考えとして披歴していたと思います。私が考え、求めていること、小早川社長が考えていることに大差はないと承知しています。

記者：そうすると、小早川社長から明日前向きな答えというか、頑張っていくという言葉が出そうか。

市長：明日、その前向きな答えが来るかどうかは分かりませんが、少なくとも私としては先般の新聞なども見ましたということは言うかもしれません。

◎発電所事故対応訓練に関する質問

記者：東京電力と原子力規制委員会が昨年度行った事故対応訓練で情報共有に関する評価が最低ランクのＣだった。

市長：先般、新潟本社の橘田（きった）代表、設楽（したら）所長から改善策の話がありました。私としてはその意識の継続が一番大事だと思います。訓練は、東京電力が行う訓練なので、柏崎刈羽６号機７号機の再稼働に資するような結果であるべきです。今回の評価は、本当に残念です。

記者：最低ランクに不安はないか。

市長：もちろん、結果だけを見れば、Ａよりも Ｃは低いので、不安を生じかねない。市民の皆さんに不安を増大させるような要因を作らないでもらいたい。安心を拡大する要因は、多く提供してほしいと思います。再稼働をしたいという強い意志があるならば、こういった不安要因を市民の皆さんに出すことは避けてほしいと強く願っています。

記者：設楽所長と橘田代表から話があったのはいつか。

市長： １週間ぐらい前かと。

記者：７月。

市長：はい。

記者：直接、市役所に来たのか。定例的なものか。

市長：はい、そうです。特別な事で来たのではありません。

◎今後の核燃料サイクル政策への考えに関する質問

記者：内閣府の原子力委員会でプルトニウム利用の指針が改定された。プルトニウムの削減に初めて踏み込んだ評価と今後の核燃料サイクル政策をどう考えるか。

市長：原子力委員会が初めて抑制に踏み込んだのは、現実を考えれば当然で、手遅れかもしれません。
核燃料サイクルは、6 号機、7 号機がさまざまな条件をクリアして、2～3 年後に動き始めれば、使用済み核燃料が出ます。現在、81 パーセントの使用済み核燃料が埋まっています。6 号機、7 号機が稼働すれば、むつ市の中間貯蔵施設へ搬出となります。東京電力、日本原燃が 8 対 2 で保有している施設です。東電の福島第二原発が廃炉になれば、そこにある使用済み核燃料はどうするのか。そのまま福島に置くのを福島の方が認めなければ、六ヶ所再処理工場か、むつ市の中間貯蔵施設に搬出となる。こちらも直接的な影響を受けます。
プルトニウム、核燃料サイクルは、昨日の原子力委員会でも明らかになったように、日本国内に約 10 トン、海外では、イギリス、フランスに 37 トン、計 47 トンのプルトニウムがあるわけです。もんじゅを廃炉にする方向性が決まっているので、あとはプルサーマルで消費していくしかない。プルサーマルは 4 基ですよね。年間消費は、1 基あたり 0.4 から 0.5 トンで合計 2 トンでしかない。六ヶ所再処理工場を動かすことが現実的なのか、国には非常に疑問だ、現実を見ていないと言いました。この核燃料サイクルが 6 号機 7 号機の再稼働問題にかなり直接的に影響を及ぼすということを、国自身、東京電力自身が考えるべきだと思っています。今、核燃料サイクルをどうするかということを決めなければいけない、潮時になっていると強い危惧を抱いています。

記者：この核燃料サイクル政策の見直しが必要ということか。

市長：見直さざるを得ないと思います。これは、エネルギー基本計画の時に、電源構成比率の差が 2 パーセントなのに、原子力発電所は重要なベースロード電源、再生可能エネルギーは主力電源にと明記されていると。一方は主力、一方はベースロードと呼ぶというのは、言葉遊びになっているように思います。そういった意味で、核燃料サイクルは、見直さざるを得ないのではないかと考えています。経済界から、ワンススルー（使用済み燃料をそのまま廃棄物として処理処分すること）という声が出始めているので、私もうなずくところです。

記者：プルトニウム利用指針は、47 トンの現状を超えないというような漠然とした言い方で、具体的な時期、削減量を示されていないが。

市長：具体的な数字がなく、実現可能なのかと全紙が報道しています。私もそう思います。ご存じのように、日米の原子力協定は自動延長で一方的に破棄ができるという不安定な状況です。それを考えると、一国のエネルギー政策の根幹たる原子力政策が、一方的な破棄の通告によって根幹が揺らいでしまう、崩れてしまうという可能性がある。この状況を現実的に国が考えていかなければいけないと考えています。

◎北朝鮮による拉致問題に関する質問

記者：7 月 31 日で、蓮池薫さんが拉致されて 40 年経った。拉致関係の自治体としてどう解決していきたいか。

市長：先般、蓮池薫さん、祐木子さん夫妻のコメントを読んだ時に、40 年という年月の重み、自分たちは帰ることができたけれども、残されている人たちへの思いと、待っている方々の年齢、状況に対して当事者の蓮池さん夫妻ならではの切実な思いが込められていると思っています。私は、できる限り、拉致被害者の方々と家族の思いを想像して共有しながら、全面解決に向けて、安倍首相に要望書を提出することなどを、重ねていくしかないと考えています。

以上